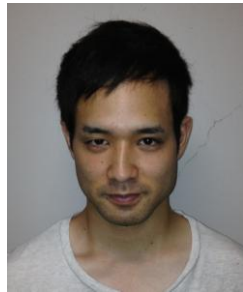


特定非営利活動法人 日本免疫学会
 平成 30 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
 研究発表報告書

申請者氏名	川上 竜司	会員番号	0034697	
申請者の所属・職名	大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学教室 博士課程			
出席会議名	International Cytokine & Interferon Society 2018			
発表論文タイトル	Epigenetic landscape of Foxp3 enhancer sites during thymic Foxp3+ Treg development of CNS0- and CNS3-deficient mice			

この度、平成 30 年度後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award を拝受し、10 月 27 日- 10 月 30 日、ボストンで開催された International Cytokine and Interferon Society 2018 にて制御性 T 細胞(Treg)の分化過程に必要なエンハンサー領域の同定について報告いたしました。岸本忠三先生、評議員の先生方、本 Award にご推薦いただきました坂口志文先生に心より感謝申し上げます。

発表後は座長の Curl Richards 先生にゲノムワイドな解析結果を表現型に結びつけた過程や着眼点を褒めていただき、今後の研究の進め方について助言をいただくなど嬉しいことがありました。ハーバード大学、MIT はじめ研究の盛んなエリアとあって、地域の若手研究者・学生らも多く参加しており、フランクで活発な議論を楽しむことができました。シンポジウムでは O' Shea による Enhancer RNA によるサイトカイン分子の応答性強化機構、D. Artis による抑制性の ILC に関する最新の研究結果等、野心的なテーマが多く討論が盛り上がっていました。

また、ランチセミナーにて教授陣・バイオベンチャー・投資家の間で研究の経済性や持続性に関して議論するという日本ではあまり目にかかることのないセッションに参加したり、会場で知り合いになった米製薬会社の研究者の方と食事をご一緒するなどする機会があり、研究の産業的な活用の道や研究者のキャリアパスの多様性を意識することになりました。これまで正直なところ起業や研究成果の実用化について一步引いた目で見えていたところがあったのですが、科学の追求を通して人々に貢献する方法はもしかすると多様であるのかもしれないと思直すところがありました。同時に、どの世界でも環境でもしっかりと科学的な仕事を継続し、成し遂げることの重要性は強調されており、これまでの自分が邁進してきた基礎研究の道にも自信を持つことができました。

学会後には Dana-Farber Cancer Institute の Wucherpfenning Lab を来訪させていただき、研究所の見学や学会発表内容を披露する機会を得ました。ロングウッド地区の一角に多くの病院や研究所が集中したエリアがあり、街中のビルに研究所がある光景には驚かされました。多様な特色を持ったラボが近接していることにより、連携がスムーズで研究の進行が早いということで、研究環境としてたいそう魅力的であるように思われました。研究の展開をスムーズに合理的に行っていくためのシステム作りという点において、日本の研究環境も改善の余地があると感じられました。

末筆ながら、今回数々の貴重な経験を得る機会を頂きまして、重ねて御礼申し上げます。この旅で受けた多くの刺激をもとに、今後より一層研究に邁進していく所存です。